

# 素顔の小松大祐

—彼をよく知る人たちに聞く—



ゆきお 小松幸夫さん(66)・ようこ 陽子さん(64)

小松選手の両親/ 迫町茂栗

名前は、大祐の祖父母が付けました。上二人は女の子だったので、待望の男の子が生まれ、すごく喜んでいました。祐という字には「神様など人知を超えた存在が助ける」という意味があり、多くの人を助けたり、助けられたりしながら大きくなってほしいとの意味が込められています。

小松家とは縁があり、当時お母さんは同僚、明子さんには英語を教えていました。高校入学後、部登録の朝に野球グローブを持って登校したので、慌てて「君はラグビー部でしょ」と肩を叩きました。入部した彼のプレーを見て驚きました。10年いや30年に1人の逸材でした。普通、人によつかるときはスピードを緩めるのですが、大祐は加速していきます。まさに「ラグビーをするために生まれてきた男だ」と確信しました。



リコーブラックラムズ 広報・普及担当 森谷和博さん(29)

末っ子の長男なので、家族全員から愛され、優しい性格に育ちました。小さい頃の姿からは、ラグビー選手になるとは思いませんでした。ところが性格とは裏腹に動きが活発で、よくけがをしていました。でも、そこで泣きもせず、痛いとも言わない。昔から我慢強かったですね。そう考えると、ラグビー向きだったのかもしれない。

中学1年の後半から高校1年の途中まで、大祐には全く手をかけられませんでした。二人とも、教員をしている中、明子の看病で手が回らなかったの。それと娘をなくしたショックで何も手つきませんでした。大祐には申し訳なかったと思っています。

私たちの気持ちが落ち着き始めた、高校1年の東北新人大会から試合を見に行きはじめました。黒沢尻工高戦で雨の中、泥だらけになりながら激しいタックルを繰り返す姿が、私たちに勇気と希望を与えてくれました。本当に感謝しています。

今は大好きなラグビーを1日でも長く続けてほしいです。そして、これまで同様、周囲への感謝の気持ちを持ち続けてほしいと思います。



佐沼高校時代の顧問 (米山町中町出身) 高橋英勝さん(53)

小松さんは、私が入社して間もない頃から声を掛けてくれて、最初に仲良くなった人です。明るく、楽しい人なのですぐに打ち解けられました。若手の兄貴分で、愛されるキャラクターです。入部して3年ほど、試合に出られない日々が続く、私は良く悩みを聞いてもらいました。しかし、小松さんは自分の悩みは全く話しません。自分のことよりも、チームや仲間の調子が悪いと悩んでいます。一人で抱え込みすぎではと心配になるときがあります。プレーヤーとしても間違いない一流です。なぜ日本代表の声が掛からないのか不思議でなりません。

小松は、まもなく31歳になる。ラグビーの世界ではベテランだ。特にウイングやセンターなどのバックスと呼ばれるポジションは、スピード系のため、年を重ねるほど不利になる。そうした中、けががない限りスタメンで起用され続けている。

「元チームメイトで広報・普及担当の森谷和博さんは「戦術理解度が高く、局面を打開する力があります。チーム内では『困ったときの小松頼み』

という言葉があるほど、頼りになる存在です」と話す。堀口陽子アシスタントS&Gは「ベテランで小柄ですが、チーム内で体力面はトップクラスです。持久力と瞬発力に優れ、全てが平均点以上。つらく苦しい体力系のトレーニングでも手抜きはしませんから。またどんなときも弱みを見せず、明るくチームメイトを引っ張り求心力がありますね」と大きな信頼を寄せます。監督・コーチ陣からもこうした部分を高く評価されてい

る。小松は「3年前に結婚して、妻がしっかり食事の管理をしてくれています。苦手な食べ物もうまく調理してくれるので、非常に助かっています。以前は、休日も筋力トレーニングをしていました。体を動かしてはいるけど不安でした。結婚して、娘が生まれてからは、家族との時間を大事にしています。オンとオフのメリハリがよかったので、ここ数年は若いときよりラグビーに集中できています」と語る。

## 手抜き妥協はしない 日々、一歩ずつ前進



1) 瞬発力と有酸素運動を兼ねたボクシングトレーニング。インターバルトレーニングで30分間続けるので、体力的に相当厳しい  
2) 二人の姉のうち、特に仲が良かった故明子さん。彼女がいなければラグーマン小松は誕生していなかったかもしれない

